



# 木地区 宝地公民館だより

河内川でのカヌー体験の様子  
(宝木地区公民館 夏休みわくわく体験)

「若草洗う大川の・・・」  
宝木地区公民館長

吉田 和行

子供の頃より慣れ親しんだ宝木小学校校歌に歌われながら、姿を消したのは、あの高浜です。しかし、水清らかに土かおる、と歌う大川（河内川）は、姿を変えつつも、悠久の流れを保ち、まさに宝木地区のバックボーンです。

宝木地区公民館では、宝木小学校の児童が、校歌で歌う大川に親しみ遊ぶことにより、宝木地区を、愛し、心に留め置かれんことを望み、平成二十三年より、高浜団地の菖蒲橋と富吉の間をカヌーで遊ぶ事業を続けています。例年は夏休み期間中に2泊3日の約五十五時間、宝木地区公民館で寝食を共にする”わくわく泊り隊”のプログラムの一つです。

昨年はコロナ禍でやむなく中止しましたが、宝木小卒業生全員の体験継続を目指し、

また屋外でもあり、今年は一仕事に短縮し実施しました。喜々としてカヌーを操る子、恐る恐る漕ぎ出す子、と様々ですが、すぐに慣れ親しみ歓喜に沸く姿は、まさに宝木地区の宝です。

わくわく体験に参加して

6年 柴田 陽斗

わくわく体験に参加して一番楽しかったことは、カヌーです。カヌーは、おとまり隊と船上山宿泊体験で二回して、今回で三回目になります。三回目なので、変な方向へとは行きませんでした。ますます行ったので、指導してくださいました人から「上手、上手」といわれてとても嬉しかったです。

楽しかったのはカヌーだけではなく、ありません。二番目は和紙ランプシールド作りも楽しかったです。みんなとしゃべりながら楽しく作れたので、夏休みの作品にしました。



ランプシェードには、紫色の  
朝顔と花  
火を作り  
ました。  
今は、  
しん室で  
使ってい  
ます。



### 縫いぐるみ作り

松本 みのり

公民館からのおさそいに、  
気軽にフクロウ作りに参加し  
ました。しかし、これがなか  
なか手ごわいものでした。

先ず、  
布の色  
あわせ  
から地  
質選び、  
糸質等  
慣れな  
い手縫  
いにつ  
まづい



てばかりです。  
先生の、お手本を見ながら  
の作業です。一つ一つ、部品  
を作るうち、全体像が見えて  
きて、楽しみになりました。  
説明書を読む余裕が出てき  
て、納得しながら進めます。  
羽をつけ、足をつけ、目を  
つけると、もう愛着を覚える  
ようになります。



手芸好きな義妹に見せると、  
早速、食指を動かしたので、  
型紙をプレゼントしました。  
今、製作中のようにです。  
二羽並べて見るのも楽しみ

です。  
このチャンスを与えてくだ  
さった公民館の皆様、森田先  
生、お仲間の皆さんに感謝で  
す。  
ありがとうございます。

### 陶芸教室に参加して

早稲田 葉子

以前から興味はありつつも、  
挑戦する機会を逃していた陶  
芸を始めて半年が経ちました。



ひんやりとする土を捏ね、  
その感触に懐かしさを覚えな  
がらどんな作品を作ろうか：

悩み形にしていきます。集中  
もするので、時間が経つのは  
あっという間。焼きあがった  
作品に対面する時のドキドキ  
感。でも想像していたような  
色が出なかった。少し欠けて  
いる、毎回のよう失敗はし  
ます。



私は初心者ですが、今ここ  
の失敗がまた面白い。次はこ  
うしてみよう、と再チャレン  
ジが出来るから。

もしかして上達したら、「  
思っているような作品が出来  
ない！」なんて陶芸家がい

そんな悩みを抱くのかしら：  
なんて事を妄想しつつ：  
まだまだ先生や周りの方に  
アドバイスをいただきながら  
の制作ではありますが、楽し  
く教室に通っています。

### 園芸教室に参加して

吉村 あけみ

私が、毎回楽しみにしてい  
る地区公民館事業のひとつが  
「園芸教室」です。



今回は秋蒔き野菜の作り方  
のポイントである、土作り、  
土壌改良剤の施用、土壌の改

善対策、種まき、今年の天候  
の状況など、講師の先生の幅  
広い知識をたのしい語り口で  
教えていただきました。日頃、  
農作業をしている私の疑問に  
思うことの解決や、作業の再  
確認の場にもなっております。  
また、他の参加者のやって  
みて良かったこと、苦労話や  
失敗談などを聞きながら、な  
るほどと合点することもあり  
貴重なひと時を持って良かつ  
たです。



歳を重ねると忘れることの  
方が多くなり、どうだったか  
な？と思うこともしばしば。

インターネットの時代、パ  
ソコンですぐ調べることもし  
来ますが、何より人と話すこ  
とのほうが理解が早い気がし  
ます。

### 『健康と向き合うひと時』に

参加しましょう

小泉 浩子

宝木地区の健康問題の取り  
組みは古く、昭和50年から三  
年間、鳥大の医学部と婦人会  
が一緒になって行った、地区  
診断から始まりました。

農村に特有な農夫症、貧血  
が沢山みつかり、取組みが始  
まりました。健康の担い手と  
なる保健師も増員となりまし  
た。

その後を受けて、平成にな  
ってから公民館に健康部が設  
置されました。

その当時、宝木地区は高血  
圧の人が多く、宝木地区公民  
館での「健康と向き合うひと  
時」が始まったのもこの頃で  
はないかと思えます。内容は

血圧・体重・体温測定、健康  
相談でした。

また、集落からの要請によ  
り、出前血圧測定等なども行  
いました。

その後、血圧計も買いやす  
くなり、主治医の管理も進み、  
町の集団検診も始まり、社会  
環境が変化したと同時に、高



齢化も進み、測定に来る人も  
少なくなりました。

平成27年、内容の見直し  
があり、「健康と向き合うひと  
時」は、測定とミニ健康講座  
となりました。ミニ健康講座  
の内容は色々ですが、「肺炎予



防のお口の体操」・「転倒予防体操」等の高齢者のニーズに添ったものもあります。  
講座の内容を知っていますか？役に立ちますよ。  
二か月に一回の「健康と向き合うひと時」に多数おいで下さい。おまちしております。



# じげの昔ばなし

昭和30年頃までの

掘り抜き井戸・共同風呂

本部 享司



宝木地区には現在3か所の水道の水源がある。(鳥取市水道事業概要)

下光元水源(深さ50m)

常松水源(深さ40m)

宝木水源(深さ24m)

宝木の掘り抜き井戸は深さ24m前後で掘られている。

昭和20年頃その数は48カ所あった(わがまち宝木)。

その頃場所的にも経済的にも単独で掘るのは難しく4〜5軒で掘るのが普通であった。その中心に当たる家の前あたりに場所を借り、管理もその家に任されていた。夕方になると大根やイワシなどを抱えて井戸を使う順番を待つ人で井戸の周りは賑わっていたという。

井戸の使いかたにも一つあった。共同風呂である。その頃、手押しポンプで汲み上げていた水よりきれいな井戸水で風呂を沸かそうと5〜6軒共同で井戸水を汲んで沸かそうとしたものである。共同風呂は、そのころ7カ所あったようである。

(当時の申し合わせ事項)

・当番は一日交替

水汲み↓沸かす↓掃除

・燃料

薪は当番の家が準備

・入る順番

一般的には男性は夕飯の前、女性は夕飯の後

「行動は歴史から学ぶ」ということは本当のようです。

宝木では明治20年から宝木祭りが開催されていて、小さい子供から大人まで村人がこぞって参加していた。何ヶ月にも及び練習は若者を中心に皆で行っていたようである。このことが宝木の人の「共同です」という行動に深く結

びついているのではないかと、私はいつも思っている。



## 編集後記

上期公民館だよりが出来ました。原稿作成にご協力頂きました皆様にご感謝申し上げます。ありがとうございます。

今年度もコロナ禍で中止になる行事がありますが、昨年度と違いどうしたら出来るかを考え、実施される行事も増えてきました。出口は近いような感じがします。もう少し頑張りましょう。

